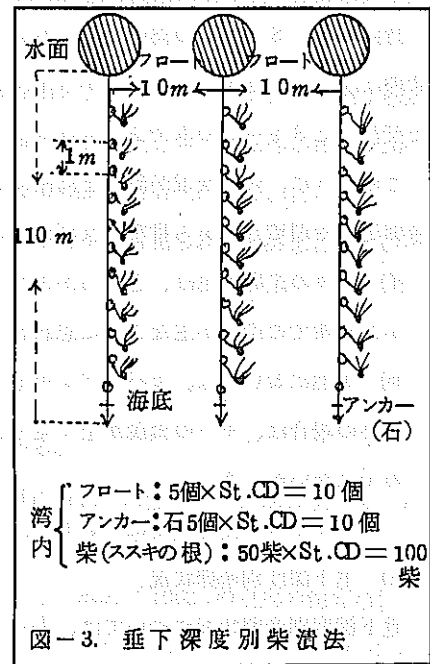
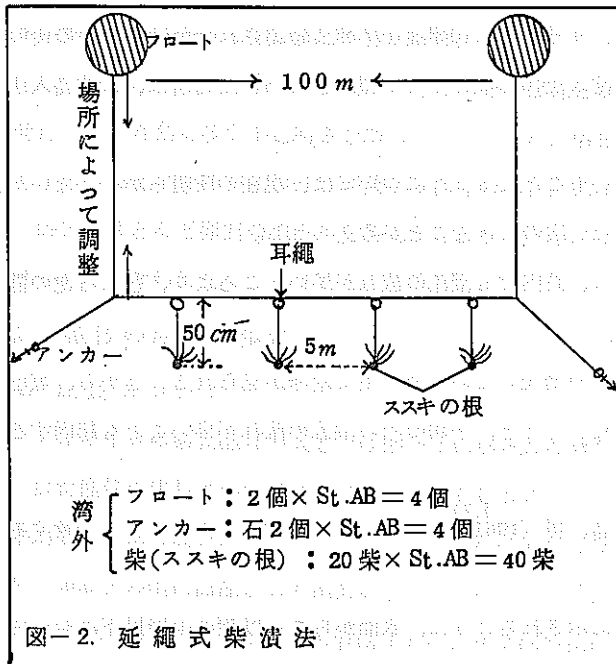


(1) 採卵柴漬方法

湾外における柴漬は、図-2に示されるように延縄式の柴漬方法で行なった。

柴数と設置状況は、St-Aは塩屋橋から約700m沖で、St-Bは宮城橋から約500m沖で、それぞれ5m間隔に20柴の100mの範囲に設置した。

湾内における柴漬は、図-3に示されるように垂下深度別に水深10mの範囲内で1セット10柴の5連を湾の中腹部St-Cと宮城島入江のSt-Dの2ヶ所にそれぞれ、設置した。



(2) 蓄養施設

蓄養施設は、図-7.4(5)に示されるように孵化小割網(300cm×300cm×300cm)と蓄養小割網(500cm×500cm×500cm)を準備し、イカの成長に伴ない網目の大きさを替える方法をとった。

そこで、成長に伴ない網目の大きさによる、網替えの段階を次のように設定した。

1段階は、2mm目前後(稚子の大きさが5mm前後)のトーカイネット地を使用し、2段階は、4mm目前後(外套長9.0mm~10.0mm胴長5mm以上)のモジ網地を使用し、3段階は、2~3cm目の網地を使用し孵化から出荷サイズまでを3段階に設定した。また、小割網の組合わせは、杉材を梯子式に組合わせさらにハイゼックスフロート4個で1台を浮上させるように結着して、モジ網及びトーカイネット地を張り合わせた。

3. 産卵状況

産卵状況については、表-1に示されるように、8月27日柴漬開始後12月に至るまで湾外のSt-A、Bにおける産卵は全く認められなかった。